

## 平成30年度 第2回 医療介護連携ミーティング 報告書

日 時	平成30年11月18日(日) 9:30~12:30
場 所	高松市医師会館 2階大会議室
参加者	72名 【内訳】 ○医師会会員(代理含む)37人 ○各職能団体14人 ○在宅医療介護連携推進会議委員8人 ○その他(行政職員・事務局)13人
内 容	<p>◆総合司会:松本委員</p> <p><b>1 開会あいさつ</b> 高松市医師会副会長 伊藤輝一</p> <p><b>2 高松市医師会在宅医療連絡協議会について</b> 高松市医師会理事(在宅・病診連携部長) 高松市在宅医療介護連携推進会議委員長 吉澤潔氏から、高松市医師会在宅医療連絡協議会について、説明がなされた。 質疑応答・意見交換 ・若手医師が減り高齢医師が多くなっており、在宅医療連絡協議会の役員選任は困難なので、可能なら任命でお願いしたい。 ・かかりつけ医を中心にネットワークを作って、地域の状況(患者や疾病・施設などの動向)を共有できる会にしてほしい。 ・外来診療と在宅医療をすると、時間がとれない。ネットワークができ、協力体制ができれば、在宅医療に関わる若い医師も増えるのではないか。 ・ブロック単位でネットワークを作るとは、移動距離の観点からもいいと思う。 ・かかりつけ医として患者紹介されて在宅診療に関わっても、信頼を得るまでに時間がかかる。ツールなどが必要になる。 ・真面目に在宅診療に関わる医師は疲弊している。在宅診療医が疲弊しないよう、共有ツールがあれば良い。 ・共有シート(介護、看護の情報も含む)などで、急変時の対応について、家族の意思確認ができるようになれば対応しやすくなる。 ・在宅診療医が把握できていないので、頼みやすい状態を作ってもらえるとよい。 ・後方支援の病院としては、急性期から在宅に返せないことも、病床不足の原因 ・急性期救急の輪番制のようなものも在宅に必要なではないか。</p> <p><b>3 説明会「ICTを活用した医療と介護の情報連携について」</b> (株)日本エンブレース 取締役兼CMO 小倉佳浩氏から、「メディカルケアステーション(MCS)」で実現する多職種ネットワークについて、説明がなされた。 ・実際の使用実例などを挙げながら、MCSについての説明がなされた。 ・LINEを使用している人であれば、今すぐにも使用することは簡単 ・外部に開かれているものではないので、セキュリティは高い。 ・無料の医療コミュニケーションツールで、そもそも在宅医療のみとは考えていない。</p> <p>質疑応答 ・無料提供のツールで、どうやって利益をあげているのか? →産業革新投資機構や民間の企業からの投資や、中外製薬や医療関係企業との共同事業によっており、ビッグデータの販売などは行ってない。 ・セキュリティ面で、これまでにインシデントは? →これまでに、報告があったものは、1件だけある。患者を間違えた誤送付によるインシデントで、発見が早かったことと、</p>

同医療機関内の患者の取違えによるもので、対応も早かったので事なきを得た。